

すげたこふんぐん 菅田古墳群

－ 足利市菅田町地内－

菅田古墳群は、足利市街地の北約4 km、渡良瀬川支流の田島川と名草川にはさまれた標高約80 mの丘の上に立地します。発掘調査は北関東自動車道建設に先立ち、平成17～18年度に実施しました。

菅田古墳群では、50基の小古墳が丘陵上の狭い場所に密集して存在しますが、このような古墳群を「群集墳」と呼びます。今回の調査では、このうち前方後円墳1基、円墳9基などを発掘しました。このうち8基は今から約1,460～1,400年前の古墳時代後期に築造された古墳でしたが、さらに100年ほど古い、古墳時代中期に造られた円墳2基も存在していることが分かりました。また、後期古墳の下から、平たい石を長方形に立て並べた「箱形石棺」なども2基発見されました。

中期の古墳の1つでは銀杏葉形の線刻がある埴輪が出土しました。この埴輪は、栃木県内では宇都宮市から小山市にかけて多く出土し、足利市内では今回初めて発見されました。銀杏葉形線刻文は近畿地方に起源をもつと考えられますが、今回の発見は、県南の東部と西部の当時の政治的な関係などを研究する上で、貴重な資料となります。一方、古墳時代後期の古墳は、内部に大小の山石を用いて横穴式石室が造られています。今回の調査では墳丘とともに石室も解体したので、当時の土木技術がよくわかりました。石室からは人骨とともに、副葬品の刀や鉄鏃、勾玉や耳環・ガラス玉などの装身具類が出土し、墳丘上に円筒埴輪や、馬・人物・盾などの埴輪を並べた古墳もあります。また、石室の入口付近には須恵器の瓶(壺)や坏(埴の一種)などが置かれていることもありました。なお、箱形石棺はこれらの古墳よりは古い墓と考えられ、当初から盛り土は無かったと考えられます。

足利市内には、菅田古墳群のような群集墳が70箇所以上存在し、それらを構成する小型の古墳は総数1,000基以上になります。膨大な古墳の一部を垣間見るような調査でしたが、色々と興味深い成果を得ることができました。



27号墳

23号墳

22号墳

24号墳

27号墳

26号墳

30号墳

菅田古墳群遠景（北東上空から）



菅田 27 号墳全景（前方後円墳）



菅田 30 号墳石室調査風景（北東から）



土の重なり方から古墳の築造方法を調べるために墳丘を半分だけ掘った状態です。

菅田 27 号墳墳丘断面（南から）